月報
第56号 マケテタマルカ

東葉警備保障株式会社
URL http://toyo-security.jp
発行日 2024年11月吉日

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。
ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

「学校の先生が足りない！？」

高知県の2025年度採用の教員採用試験において、小学校教諭として合格した280人のうち7割超の204人が辞退するという事態が発生(29日時点)しています。

かつて学校教員(教育公務員)は自他共に「聖職」と意識され、尊敬され敬われる一目置かれた存在でした。教員を取り巻く労働環境が30年前、20年前、10年前、そして現在と急激に悪化したとは思えません。

私が学校訪問をするようになって、生徒達と校内ですれ違う時に実感するのは、昭和～平成～令和と生徒の気質が驚くほど変わったことです。スーツに身を固めた外部の者(訪問者)が「こんにちは！」と声をかけてもらえる。これ一つとっても昭和の学校では考えられないことです。進学校に位置しない学校は校舎も教室も荒れて、立ち入るにも勇気が要る殺気立った独特の空気があった時代も今は昔です。

生徒・父兄の教員を見る目が変わったのでしょう。父兄の大学進学率が高まり、教員が評価する者から、評価される者になりました。「聖職者」から「教育サービスの提供者」として顧客・その家族から評価をうける対象になったことも時代の流れでしょう。

教員志望者とて人の子です。「割りの合わない仕事」のイメージを割り切れない人が出て来ても文句は言えません。マスコミから「教員はサービス残業が多く、、」などと流れてくる情報はどこまで真実かは疑問です。小・中・高を同列に扱えません。ちなみに学校訪問先の高校で17時以降も残っている先生にはまず出会えません。

当社では毎年、たくさんの新卒社員を迎え入れております。ひとりでも多くの若い力を大切に育て上げたい。会社を通して彼らの人間形成の役に立ちたいと存じます。ぜひとも、大切な生徒様の進路先に当社を加えてください。
新年度も、東葉警備保障株式会社をどうぞよろしくお願い申し上げます。

松本　隆一郎